



千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

95.11.14 No. 4292

12月ダイ改阻止へ総決起を 無謀な外房線を中止し スピードアップ

千葉支社当局は、十二月一日のダイ改以降、外房線のスピードアップ—二〇km運転を強行しようとしている。ところが、これを目前にして、外房線で線路をめぐる様々問題がたて続けに起きている。十一月九日には、御宿—波花間の道床交換をしたばかり箇所が沈んでしまいい、徐行をかけるを得ないという事態が発生。また、十一日には、勝浦駅構内のポイントで本線と安全側線のクリアランスが不足しており、徐行をかけるという事態が発生している。こんな事態のなかで、二〇km運転が強行されようとしている。しかも、より問題なのは、スピードアップを目前にしているが、千葉支社の運輸部が、このような事態に殆ど問題意識すらもっていないということだ。例えば、十日の団交でも、次のとおりである。

組 (御宿—波花間の線路沈下について質問)
当 指摘されたことについては徐行をかけるとともに、施設の係員を現地に派遣した。原因は調査中である。

組 徐行をかけたというが、運転士は、その前日から異常について報告をしている。
当 前日から報告されていたかどうかは、……。

組 根本的な原因をつきとめるには時間がかかる場合もあるかも知れないが、施設の係員を派遣した結果、どのような現象になっていたのか。
当 それは今言われてもどうだ

かわからない……。
組 スピードアップを前にしてこんな重大な事態に運輸部が無関心とはどういうことか。……。

これが、勝浦運転区廃止攻撃など、動労千葉潰しのための不当労働行為ばかりに血道をあげる千葉支社運輸部の実態である。

外房線の無謀なスピードアップを中止せよ。勝浦運転区廃止攻撃を直ちに中止せよ！十二月ダイ改阻止に全力で起ちあがる！

11/12 木更津支部第18回大会開催 ダイ改阻止に共に起つ

十一月十二日、木更津支部第十八回支部大会が開催された。

冒頭、佐久間副支部長が、十二月ダイ改に向けて、勝浦運転区廃止攻撃との闘いが、大きな課題となっている。これは勝浦のみの問題ではなく、次はわれわれだと考えなければならぬ。動労千葉は、この間全国に闘う労働運動の新しい潮流をつくろうというところで闘ってきた。

今日は、様々な意見をだしあつて大会を成功させたい」とあいさつ。続いて支部を代表してあいさつにたった島野支部長は、

「この一年間、ダイ改闘争、地方選、物販など、大変な闘いの連続だったが、組合員の協力に感謝します。厳しい情勢のなかだが、解雇撤回・清算事業団闘争勝利、強制配転粉碎、十二月ダイ改阻止、乗務員、検修、事務それぞれの労働条件改善に向けて、今後も頑張りぬく態勢をつくりあげたい」と提起。活発な質疑が行なわれたあと、鈴木新支部長をはじめとした新たな執行体制が確立された。

【出された主な意見】

▼年間休日数が増えるという提案が行なわれているが、要員は現状のままにされるのではないか。木更津のような小さな職場は、休日労働をやらざるを得ない現状にある。

▼木更津は気動車職場なのに訓練センターで行なわれる訓練は電車の訓練だ。訓練をやったという実績をつくるだけで意味がない。しかも、訓練が十二月に集中していて要員のにも厳しい。

▼来年度、三〇系の車両が投入されるといふ話があるが補修や検修設備の面で、様々な問題が起きることが予想される。

▼十一月に「君津ふれあい市民号」が運転されるが、要員もいない状態のなかで、訓練が必要であったり、無線を取りにいたり無理がある。しかも、意味のない列車設定であり、中止すべきだ。



特	執行委員	支部長	支部長
執		書記長	書記長
島	齊 荒 鈴 牧	鈴 鹿	鈴 鹿
野	藤 井 木 野	木 島	木 島
三	喜 秀 敏 光	嘉 正	嘉 正
喜	雄 夫 一	夫 巳	夫 巳